

# 安全でおいしく楽しい給食の時間をめざして

熊本県立黒石原支援学校

## 1 はじめに

本校では、「児童生徒の病気や障がいの状況を踏まえ、教育的ニーズに応じた具体的な指導・支援をとおして、一人一人の能力を最大限に伸ばし、主体的・自立的な生活につなげる」ことを教育目標に掲げて日々の教育活動に取り組んでいます。その中でも、学校給食は、子どもたちの命を育み、心を育み、学ぶ意欲、生きる意欲を育む上で、大切なものです。今回は本校の給食指導の様子を紹介します。

## 2 本校の給食について

本校には、食事や排泄等の日常生活全般に支援が必要で、表情や目の動きで気持ちを伝えたり、わずかに動く指先や顎でスイッチを動かしてパソコンを操作し、自らの意思を発信したりしている児童生徒がいます。



(給食の様子)

また、咀嚼（噛み砕くこと）や嚥下（飲み込むこと）の能力が未発達な状態で給食の形態に加工が必要であったり、口から食事を摂るのではなく、チューブを使って栄養剤やペースト状の食事、牛乳などを鼻腔から胃に、あるいは胃に直接注入して栄養を摂ったりしている児童生徒もいます。本校では、一人一人の児童生徒の実態に応じた給食の形態、支援方法の工夫を行うことにより安全でおいしく楽しい給食の時間をめざしています。

## 3 取組の実際

### (1) 自尊感情を育むために

本校の給食の形態は、普通・一口大・粗刻み・刻み・極刻み・ミンチ・ミキサー・経管栄養（ラコール、エンシュア等）と様々で、それぞれの児童生徒の実態に応じた形態の給食を食べています。（一例：写真参照↓）



(普通)



(一口大)



(ミンチ)

形態加工が必要な場合、担任は、毎月の献立表を基に、保護者と相談して、形態加工についての再調理の要望をまとめ、調理業者に加工を依頼します。

また、新年度の給食が開始される時期には、必ず保護者に給食時に給食場面を参観していただき、再調理の状態や食べる際の姿勢、食具の使い方等について確認する機会を設けています。

児童生徒の食べ方や嗜好に変化が認められる場合や体調の変化による給食への影響が心配される時にも保護者へ連絡し、その都度、給食の時間に同席していただきながら給食指導を行っています。



(ミキサー食加工の様子)

このような取組によって、噛むことが上達し、これまでの形態では噛み応えが少なく、物足りなさを感じていた児童の表情に笑顔が見られるようになりました。また、食べた残りを経管栄養で胃瘻から注入する場合には、看護師が「さあ、次は〇〇を食べようね」「最後にデザートだよ」と丁寧に声掛けをすることで、安心した表情で給食の時間を過ごすことができるようになりました。また、ST（言語聴覚士）による食事支援についての研修を行い、職員の専門性の向上を図っています。

#### (2) 豊かなコミュニケーション能力を身につけるために

給食の場面が児童生徒のコミュニケーション能力を高めるためにもとても大切です。そのため、給食の時には、児童生徒に食べる順番やメニューの中の嗜好を聴きながら十分な時間を確保して食べています。また、食べているメニューや量を教師と一緒に、友達に紹介するなど、会話を楽しみながら給食を食べています。

#### (3) 共に支え合う仲間作りのために

食べ方には、口から全量を食べたり、最初に口から食べて残りを胃瘻から注入したり、全て経管栄養のみであったりしますが、友達と一緒にクラス毎に同じ場所で楽しく食事できるように、テーブルや椅子、マット等の配置を工夫しています。

校外学習では、公共の施設を利用して食事を楽しむことができるように利用先の施設にきめ細かな再調理の対応を依頼したり、保護者に持参していただいたミキサーで、その場で形態加工をしていただいたりしています。友達だけでなく、いろいろな方々との交流を深めて、将来の仲間作りの基礎を培うことにつなげています。



(レストランで楽しく会食)

#### 4 終わりに

給食は、日々の学校生活の中でも、児童生徒の健康や命に直接つながる大きな責任を担っています。児童生徒の実態に応じたきめ細かな配慮をし、「安全」を第一に、「楽しく、美味しい」と実感できるようにすることが大切です。今後も給食指導をさらに充実させることで、児童生徒の将来の自立した生き方の実現につながるよう指導・支援していきたいと思います。